

第2回経営ビジョン策定検討部会 議事録

日 時 平成29年5月10日（水） 午前10時から正午まで

場 所 京都市上下水道局本庁舎 5階第1会議室

出席者（本市職員を除き五十音順，敬称略）

1 委員

神子 直之 立命館大学教授（理工学部）
小林 千春 同志社大学教授（経済学部）
小林 由香 税理士
西村 文武 京都大学准教授（大学院工学研究科）
江渕 史明 京都市上下水道局総務部経営ビジョン策定・防災担当部長
※中嶋 節子委員は欠席

2 京都市上下水道局

総務部経営政策担当部長，総務部経営企画課長，総務部経理課長
水道部管理課担当課長，下水道部計画課長
事務局（総務部経営企画課）

次 第

1 開 会

- （1）出席者確認
- （2）進行の確認，会議の公開について

2 議題

- （1）次期経営ビジョンの施策体系について
- （2）水道及び下水道施設等マネジメント基本計画について

3 閉 会

内 容（議題に係る主な意見）

＜次期経営ビジョンの基本理念について＞

- 事務局案の「京の水からあすをつくる」について，「水をつくる」であれば理解できるが，「あすをつくる」という表現になると，その意味が分かりづらい。
- 確かに水だけでは明日をつくることはできないが，京都の水を担う上下水道局として，水を担って明日を能動的につくっていくという意識を持っているというメッセージと感じていた。上下水道局としての姿勢を市民が感じてくれればいいのか。

<次期経営ビジョンの基本理念、視点・方針・取組項目の表現方法について>

- 市民の側としては、基本理念と視点の3つの言葉が抽象的になりすぎて、現行の「京（みやこ）の水ビジョン」よりわかりづらくなった印象を受けている。取組項目を読めば具体的な内容がわかるので問題ないと思うが、視点で用いている「みらい」、「ころをはぐくむ」、「ささえつづける」という言葉がわかりづらい。また、漢字ではなく、ひらがなになっているので、パッと見ただけではわかりづらい。ビジョンというものは、一見しただけですぐに理解できる表現にしていって方がいいのではないかな。
- 理念や視点、方針の表現は抽象的でもよいのではないかな。また、理念等も大事だとは思いますが、それを具体的に行動に移せるということができて初めて生きてくるように思う。ビジョンは具体的な行動を記載するものではないのかもしれないが、実際には具体的な行動とリンクさせていく必要があり、その点をわかりやすく表現できれば、市民にもわかりやすいものとなる。

<次期経営ビジョンの記載内容について>

（全体に関わる意見）

- 取組項目のさらに下の階層でもよいので、これまでの取組に対する総括や今後の改善点についても触れることで、より一層効果的な事業運営ができると考える。
- 人口減少社会の中、安定供給を維持するために必要である管の更新のスピード化を進めるということが、財政面から見ると非常に厳しいということが示されておらず、これでは、水道事業・公共下水道事業における今後の危機感が市民に伝わらない。こうした点を表現することも重要と考える。
- 取組項目では、日常の事業に係る内容と危機等発生時の対応を分けて記載してみてもどうか。

（方針「人とふれあう」、「水を担う」への意見）

- 上下水道局職員のみが京都の水道・下水道をつくっている訳ではないので、市民にも当事者意識を持ってもらうという観点も加えてみてはどうか。
- 下水道は下水をきれいにするだけではなく、資源循環を含む幅広い役割も担っているということについて、市民にはあまり知られていないように思う。このような点について、積極的な広報があってもいいのではないかな。
- 資源循環や防災・危機管理については、市の環境部門や消防部門とも連携して市民にアピールしていくのもよいのではないかな。
- 他の自治体が、水道について住民に対して行った意識調査では、水道事業が独立採算制であることが住民にあまり知られていないという結果となっている。こうした点を踏まえると、料金に対する不満などは、情報不足から生じる部分もあるかと思うので、水道料金の設定がどのように行われているかといったことを広報していくことも必要かと感じる。

（以 上）